

書き換え「ひどい」

規制委員長が原電批判

原子力規制委員会の更田豊志委員長は十二日の定例記者会見で、日本原子力発電が敦賀原発2号機（福井県）の審査で使う地質データを書き換えた問題について「本当にひどい。新たな

情報を書き足すなら分かるが、手を加えることは今後の議論に誤解を招く」と厳しく批判した。

規制委は敦賀2号機の原子炉建屋直下に活断層があると指摘しているが、原電

は認めず、再稼働を目指し規制委に審査を申請している。問題となったのは原電が二〇一二年に実施した掘削調査の記録で、従来の資料を書き換えたものを今月七日の審査会合で示した。

原電は「説明不足だった」と陳謝したが、更田氏は「科学や技術において、最も初歩的な部分が欠落している」と指摘。規制委は原電から書き換えの理由や経緯の説明を受けるまで審査を再開しない方針で「その説明が納得できるかどうかポイントだ」と述べた。